

平成26年12月

武田知加子 学位論文審査要旨

主査 林 一彦
副主査 梅北善久
同 永島英樹

主論文

Cytoplasmic maspin expression predicts poor prognosis of patients with soft tissue sarcomas

(軟部肉腫患者における細胞質のmaspin発現は不良予後を予測する)

(著者：武田知加子、高木雄三、塩見達志、野坂加苗、山下英樹、尾崎まり、遠藤宏治、南崎剛、豊島良太、永島英樹、梅北善久)

平成26年 DIAGNOSTIC PATHOLOGY DOI:10.1186/s13000-014-0205-9 7 pages

参考論文

1. 頰椎インストゥルメントが折損した3例

(著者：武田知加子、永島英樹、三原徳満、村上大気、土海敏幸、谷田敦、楠城誉朗、豊島良太)

平成24年 Journal of Spine Reserch 3巻 1555頁～1558頁

2. Prompt surgical management for spinal fracture in the elderly aged over 90 years with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis to extend their healthy lifespan (健康寿命を延長する90歳以上のびまん性特発性骨増殖症患者に生じた脊椎骨折に対する迅速な外科的治療)

(著者：谷島伸二、武田知加子、濱本佑樹、近藤康光、永島英樹)

平成24年 European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology 22巻
29頁～34頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は軟部肉腫患者108人の手術標本パラフィン包埋切片を用いて、免疫組織化学的に maspin 蛋白の発現及び局在を検索し、軟部肉腫の悪性度と関連する臨床病理学的因子及び予後との関連を統計学的に検討したものである。その結果、軟部肉腫108例中、48.1%に細胞質 maspin 蛋白の発現が認められ、肉腫の組織学的高悪性度および遠隔転移との間に有意な相関が認められた。また、細胞質 maspin 蛋白の発現が認められた患者は無再発生存期間及び全生存期間がともに有意に短いことが判明した。多変量解析では遠隔転移の存在のみが、無再発生存期間と全生存期間の独立した予後因子であった。本論文の内容は、軟部肉腫患者における細胞質 maspin 蛋白の発現が不良予後を予測し得る新たな因子となる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。